

10 分散会交流のまとめ 「みんなで学び、つながりを広げるために」

◆交流テーマ◆

1. 消費者教育を担う地域での人材育成について考えよう
2. 消費者教育と学校との関わりについて話してみよう
3. これまでの取組の振り返りと今後の取組について話してみよう
4. 消費者問題と地域での連携について考えよう

4グループ

こんにちは。広島県から参りました吉本喜一(よしもとときいち)と申します。

私たち、4グループはテーマとして「消費者教育と学校との関わりについて話してみよう」について話しました。最初に出たのは、「学校で子どもが消費者教育を習ったということを持って帰っていますか」ということをお子さんのいる方に聞いてみたのですが、「時々、プリントなどは持って帰ってきたりはするけど、そのままスルーしてしまったりすることも多いかもしれない」「普通、無関心な人も多いのではないか」という話が出ました。無関心が一番の問題なのだけれどもそれはなぜだろうという話があった後に、自分が被害にあったことがない、あうわけがないと思っていることがあるからではないか、それでは、保護者の方とか、学校で消費者教育を行うということに関して何か意見がありますかと聞くと、保護者の方からではないのですが、コーディネーターをされている方から消費者教育の要望は教員から過去あまり出ていなかったのだけど今年に入ってお金の教育について話してほしいという意見があり、お金の関係の話を外部の講師にお願いして保護者参観でやったという事例を教えてくださいました。学校での教育、外部講師をお願いすると、学校で授業をするのと、どのように進めていけばいいのだろうかという話になった時には、導入やまとめなどポイントごとに専門家の話を聞くということは大切だと思うけれど、基本的には教師が全体をやっていくのがいいのではないかという話がありました。

消費者教育の目標としては社会の中の問題に気付く能力を教育できればいいのではないか、それが目標ではないかという話になり、そうすればよりよい社会になっていくのではないか。そして、外部の団体と学校との連携というところで、色々な団体や企業の消費者教育に対する思いも強いですが、学校の現場自体に関心があるところとないところもあるので、その辺のすり合わせ、発信者と受け手との「思いのすり合わせ」がとても大切になってくるのではないかという意見がありました。消費者教育というのは基本的に価値判断の考え方を身につけてもらい、時代に応じてその基本に沿って判断をしていくことが必要だろうということでもとまりました。

5グループ

新潟県生協連から参りました清水と申します。

5グループは高校の教員の方や市の行政マン、消費者センター、地域で色々な福祉に関する様々な取り組みをなさっている方など多彩な参加者がおりまして、まさに今回のフォーラムにふさわしい方々と交流ができました。テーマについては絞り込もうとしたのですが、高校の先生が高校教育の消費者教育についての悩みがありましたので「消費者教育と学校の関わりについて話してみよう」「消費者問題を地域で関係団体が連携してできるか」ということで2と4を中心に話し合いました。以下まとめたものを読みます。

今ある色々な組織を柿野先生もこれから色々と研究なさるようですが、組織をコーディネートする役割を担う人が必要だということに最終的には尽きると思いますが、連携の充実をしてほしい人、具体的には消費者センターと言いがちですが、なかなか現在の仕事のことを考えれば難しいということもありますし、連携を維持していくためのまとめ役ということになれば、行政はどうでしょうかということになれば、行政は色々な協議会や審議会等がある中でまさにそういう横串を刺すのが難しいというような現実の目の前の業務のこともあるということです。

実践に向けての担い手づくりを総合事務所など、結局大きなくくりの中でシステム化できないかということになりまして、やはりその問題も消費者トラブルになるのも本人意識の問題であるという、いわゆる一般市民の行政も含めたその辺の理解を取り除くためには、地域でトラブルの解決に向けて市民の安全安心を守るのは行政の仕事だとすれば、全国的にも相談窓口の充実化、知識の向上やレベルアップに向けての取組の組織化づくりが必要ではないかという結論にまとまりました。

6グループ

消費者教育 NPO 法人お金の学校熊本の徳村(とくむら)と申します。おそらく、今回、一番遠いところから来ただろうということで発表せよとミッションが下りました。

私どものグループは、消費者教育と学校というところから中心に話を進めていく中で色々な課題が出てまいりました。一つは、消費者問題は非常に幅が広く、学校側や消費者自体の興味がどこにあるのか絞りにくい、消費者自身が体験したり関わったりしたりしたことについては興味を持ってくれるのだけど、それ以外のテーマでアプローチしようとするとなかなか乗ってきてくれない。もう一つは、行政の方からの発言だったのですが、「被害救済という視点から予防へと展開していこうとは思いますが、なかなか行政を中心に行政の中だけでも理解が進まない」「他の機関や他の課に負担なく消費者教育を展開していきたいのだけれどどうすれば良いか分からない」「何を求められているのかも把握ができない」というご発言がありました。これについて、一つには高齢者や子どもに関わっている方、その当事者自身ではなく、その方たちの周りにいる人たちがきっと色々なニーズ、困りごとを抱えているだろうから、そこに行って話を聞いてニーズを発見するのも一つの方法ではないかという話が出ました。

それに対する今後の取り組みですが、例えば「金銭教育学習会」というような固い名前ではなかなか人が集まらないという指摘がありました。キーワードとして「お祭りのような楽しくて面白そうという仕掛けが必要なのではないか」「人を集めるという発想から人が集まるというイベントに乗っかってしまう」「楽しいイベントを見つける、つながるというようなことはどうだろうか」という発言があり、では、どうやったら実践できるのだろうかという意見が出ました。実践例として越谷の方からの発言がありまして、消費者団体の方が主催で、交流館を利用して子どもたちに仮想の通貨、お金を渡して使ってもらおうというイベントをやっているそうです。子どもたちは退屈してしまうので、その後にその隣にある消防署の見学もセッティングしている。これはまさに交流館や消防署との連携・協働、異業種との連携であるというような報告がありました。

どのようにして実践できたのだろうかという話になりまして、1つは色々な人たちが集まり、今日のような「井戸端会議」と熊本でよく言うのですが、井戸端会議をしようよととにかく集まる。その中で色々なアイデアが出るということ。また、できない理由は言わずにどうやったらできるかなと。だめだということは言わずに、どうやったらできるのか。今は難しいのであればもう少しできることをやってみたらどうかと。最後に、行政の方からのご発言で行政は正確であろうとするので言葉が固くなるし、公平性を意識しすぎるので動きが悪い。消費者教育は前例があるようでないの、とにかく新しい挑戦をしましようというところで終わりました。

9グループ

コープみらいでブロック委員をしております福島と申します。9グループでは私の声が一番大きかったので発表するという形での役割です。

私たちは1番の人材育成の話と、2番の学校との関わり、4番の地域との連携の3つについて話をしましたが、実際にはどれも相互に関わりがあるということで大きくは消費者教育と学校からまとめた部分を何点か発表させていただきます。今回の消費者教育フェスタに参加された方も中には数名いらっしやって、学校教育の中での消費者教育の重要性も再確認したということでその部分では2点あります。

まず、小学校2年生くらいの小さなお子さんに対しても消費者教育というのは早すぎる段階ではなく、受け入れられるものである、やはり小さい頃からの教育が大事だという点。学校の授業というのは必ず正解があるものがほとんどだが、消費者教育というのは正解がない。どのような方法を取ってもそれがその人その人の正解になる。たくさんの選択肢の中から色々なものを選んで自ら考えるという意味での消費者教育はやはり非常に重要であるという2点が出てきました。

また、企業と学校が連携したデモ授業がフェスタで実施されたそうですが、学校側では準備のできないような、材料も多く豊富な教材を使っての授業ができるという点で、企業と学校が連携して実施するという点にはメリットがあり、連携することが非常に大切であるという点も分かってきました。また、企業と学校が連携をする時には、やはり学校側でどんな方法で子どもたちに伝えたいかなど、打ち合わせをする、すり合わせをすることが非常に重要で、その中でコーディネーターという言葉が今回の中でもたくさん出てきましたが、そういったコーディネーターの人材を育成していく上では学校側の窓口のコーディネーターの方、企業のコーディネーターの方、または地域との連携も考えられますので地域のコーディネーターの方とそれぞれの役割を持った方を育成していくことも大事なのではないかと話も出ました。学校と地域の連携でいくと、まだまだ今現在は進行していないということで、「放課後子ども教室」という話が出ました。そういった中でお年寄りの方がコーチになってお子さんと関わるといことも中にはあるそうですので、そういった取り組みから地域の関わりがうまく発展していくといいねという話も出ました。

最後に、学校との関わりはちょっと薄いのですが、地域との連携という意味でいくと公民館という公の場所、夏休みにはお子さんも来ますし、高齢の方も来られますし普通の方もサークルなどで活用されるので色々な年代の方が集まりやすい場所ということで、そこを消費者教育の拠点として利用していくということも地域と行政と色々なものの連携がうまく取れるのではないかと話も出ました。

21グループ

東京都生協連の那須です。21グループの発表を行います。

21グループは行政の方が1人、相談員の方が2人、生協が3人、NPOが1人ということでした。テーマを決める時に話し合いました。採決をしました。「消費者問題と地域との連携について考えよう」というのが生協の3名。「消費者教育と学校の関わりについて話してみよう」が2名。結局、なんだかんだ話しているうちに最後の発表はこれまでの取り組みについての振り返りと今後の取り組みについて話してみようというところに落ち着きました。

1番目に、高齢者でも若い世代でも届けたい人にアクセスできないという問題。水飲み場に連れていくことはできるけれども飲ませることはできない。知らないうちに水を飲んでいる状態になるといいよねということでした。

2番目、消費生活センターの認知度を上げるということでいくつかアイデアが出ました。「チラシにQRコードを入れる」「拡声器で担当日を案内する」「母親世代には生協が頑張してほしい」「回覧板やバインダーで案内する」「出張相談」「土曜に市内各地を回る」「生協のホームページに消費生活センターの案内を載せる」「社会福祉協議会に頼む」「ハローワークに頼む」などの意見が出ました。

最後に、義務教育の間にセンターを認知させる、インプットさせるということが大事ではないかということで親子対象講

座。消費生活センターに社会科見学で来ていただく等、とにかく消費生活センターの認知度を高めて、皆さんに知ってもらおうことが大事なのではないかという結論に達しました。

22グループ

神奈川県消費者団体連絡会の丸山です。地域的には長野と千葉と東京と神奈川の集まりのグループです。話し合ったことは、消費者教育が地域に根付くためにはどうしたらいいのだろうかということからスタートにして、大体4番のテーマで話しました。その時に、消費者教育と考えると今のこともあるし、将来のことも含めて両方あり、タイミングもあるだろう。そんなことを考えると昨日、今日のテーマの消費者教育と学校教育の連携が主だと思いますが、学校に丸投げする手前の中に身近な人、例えば親が子どもに小さなことでも話すこともとても大切ではないかというような話がありました。身近な人からというのは1つのキーワードになると思います。もう1つは、子どもであっても誰であっても興味のあるものに伝えていく。その身近なテーマから話をしていくということがとても大事ではないかと思います。言い換えれば私たちの暮らしの中の色々な課題と結び付けていくことが、とても「すん」と落ちてくるし大切であろうということが出されました。

1つ大事なのは社会の中で徐々に色々なことを学びます。その学んだことを地域の中に戻していくという、学びの循環のような事も消費者教育を全体の社会の中で考えていく時に大事ではないかということが出されました。

28グループ

全国消団連の小浦(こうら)です。

私のグループでは新潟から1人、他は千葉県内で色々な活動をしている人がほとんどでした。

最初、4番の「消費者問題と地域での連携について」報告するよう言われたのですが、その方々の活動が本当に素晴らしくて、地域の連携についても今すでに進んでいるということでしたので3番の「これまでの取組を振り返りながら今後の取組について話をしよう」と話をしていましたらやはり、今後の取組ということは地域での連携ということに話がつながってまいりました。コープみらいのコープ会の活動をしているブロック委員さんが2名いらっしゃったのですが、やはり地域での毎月1回の集まりの中で消費者問題の話をしたり、色々な年代の方たちの交流があるという話。ある方は全国的な課題でもあるのですが、高齢化が進んでいる消費者団体では若い人たちとのつながりがほしいという方もいらっしゃいました。ですので、この分科会を機会にぜひ、コープ会も全地域ありますのでつないで、その地域でまずつながり作りを試みてはどうかという話にもなりました。

少し夢のような話なのですが、実現するといいかんと思っております。後は今取り組みが進んでいます、全体でも紹介を受けました「消費生活ネットワーク新潟」の方からは消費生活サポーターを要請して色々なところに講師として派遣をしているということでした。そういうところからも地域のつながり作り、もっと色々な団体とできると良いという話にもなりました。とにかく、地域での連携から消費者教育や消費者問題の被害をなくしていくということにつながっていくのではないかと地域のつながり作りを大事にこれからも活動していきたい、そこにはやはり核となる行政にもしっかり絡んで欲しいということも出てきましたので、色々な協議会でそういう話が進むといいねということで終わりました。